

本書について

本書は、^{いしがみりよう}石上涼さんの霊体験の日記です。

石上涼さんは、ごく普通の健全な良識ある社会人の青年です。けれども本書をお読みになると分かるように、これは驚くべき霊的な現象を日常的に体験した記録です。この体験は、幻覚や想像、まして病的な妄想ではありません。霊的な存在や事象を認めない方には、いかにも荒唐無稽に感じられるかもしれませんが、これは事実です。ただ、涼さんはいわゆる霊的に敏感な特殊体質「霊媒」タイプです。ですから普通私たちが感じない見えない世界の霊の存在や働きが、なまなましく感受されているのです。

本書は、涼さんが体験し暴き出した邪霊たち（邪悪な意識体は人霊だけでなく多種存在している）が事実存在しており、私たちに密着し一体化して働き、人間の精神を悪化し、地球と人類の破壊を画策していることを広く知ってもらうために発刊しました。邪霊たちはこの世の覚醒剤密売組織や「オレオレ詐欺」団より、遙かに巧妙です。彼らは私たち人間の心の中の弱点を知り抜いていて、うまく潜在意識に忍び込み侵入し働きかけるのですから。姿も見えず声も聞こえず、しかも地球上には存在しない高度な科学力を駆使しているのです。こういう現実を無視し、一切霊は認めないということは、あえて目かくしをして赤信号をわたるようなものではないで

しょうか。このような目隠し状態の危険この上ない世の中に警鐘をならすために、涼さんの霊体験日記を取って公開させてもらうことにしたのです。

しかし実はもっと涼さんの日記には、重大な意義があると思うのです。それはこの一風変わった日記が、そのままひとりの人間のめざましい成長の記録になっていることです。わずか1年半足らずで、人間はこれほど進化するものなのでしょうか。驚異と感動を禁じ得ません。

涼さんは2008年5月にリラ自然音楽クラブ（桑原啓善のネオ・スピリチュアリズム理論に基づき、桑原が開発したリラ自然音楽による人間進化セラピーをおこなう会員制クラブ）の会員になりました。入会当初は、涼さんは心身の危機一步手前の、まさに邪霊の餌食になりかかった状態でした（注、本文の18ページ参照）。ところがそれからわずか20か月足らずの2009年12月には、凶悪な邪霊をリラ自然音楽セラピーで浄化し、日常的には身のまわりの悪想念（邪気）をぐんぐん浄化する「浄化槽」ともいうべき存在にまで変貌しています。いわば「歩く供養塔」に近いところまで、急速な全人間的な浄化進化を遂げています。涼さんは、まだまだこの先進化し続けるでしょう。（事実2010年3月現在、涼さんは精神進化のレベルを示すリラヴォイス発声のレベルが「生命の樹のリラ」の段階にまで更にアップしています）。一般的に凄い霊能者と言われる人でも、1体の邪霊を浄化することは、並大抵のことではあ

りません。涼さんのレポートをお読みになれば、いかにも素朴で飾らない記述の中に、彼がいかにも純粋な地球と自然への愛に燃えているか、誠実な人間の生き方を淡々と日々実践努力しているか、お分かりになるでしょう。邪霊を浄化するのは霊能ではありません。苦しい邪霊との闘いの中から真実の愛に目覚めていくその心の軌跡は、暗い地上に降り立った小さな天使のように見えてきます。

しかしこういう健気に生きている人は涼さんだけではありません。リラ自然音楽セラピーを受けつつ、日常生活をコツコツと一生懸命愛と奉仕に生きる努力を続けている沢山のクラブ員の人々が、ほかにもいます。

人間は進化します。限りなく天使のような愛溢れる人にまで。まわりを浄化し地球をすくう人にまで、誰でもなれます、なれるのですから、ならねばなりません。

本書は、涼さんの日記のほかに、セラピストの記録「セラピー日記」（『リラ通信』第33号所収）が収録されています。涼さんのセラピーの状況を伝えるために挿入しました。また、必要最低限の（注）を編集者（セラピスト）が付けました。

2010年3月8日

編集者 記

が「ジクジクして」きたのだと思われます。

4 リョウレポート

空間が巨大な生物、ホラー映画そのまま

2008年9月20日 ゴムのような手を噛む

夜、金縛りから幽体離脱状態になりました。首の後ろと腰の部分を何者かにつかまれ振り回されている感覚を受けました。いつもと同様のイヤな感じがしました。

つかんでいる相手の手を見る事に成功しました。

かなり大きめでした。30cm くらいあったと思います。

「やめろよ」という意味で手にガブッと噛みついたのですが、ゴムで出来た固まりに噛みついた様な感じで相手には何の反応もありませんでした。

2008年9月21日

エーテル界(?) 空間が巨大な生物

CD「ホワイト・イーグルの言葉」で戻る

夜寝てる時に、前兆現象から金縛りに突入しました。何者かに後ろから抱きつかれ、背中を舐めまわされながら暗い空間内をグルグルとひきずり回されました。その抱きつかれている人間臭さの

様な生物的な人体感覚が現実よりも数段リアルで、生温かさや息づかいが、非常に苦痛に感じました。しばらくした後、よく年配の男性が風呂上がりに髪につける様なヘアトニックの臭いがしたのでこの人は男性だと分かりました。その後、相手の頭を見る事に成功しました。かなり大き目で30cmくらいありました。髪は角刈りにしていて、雰囲気からヤクザの様に感じました。手も大きく20cmくらいありました。「早く体に戻れ!!」ともがいてもがいてなんとか体に戻れました。その後、「あーよかった戻れて」という思いでトイレに向かうと、寝室の前を通りかかった所で異変に気付きました。寝室の様子が変わっていたのです。「えーなんでだ!!」と強烈に思いました。戻れたと思っていたのが実は戻れてなかったと分かり、非常にショックを受けました。

「そんなバカな!!」という思いでした。寝室は和な感じの畳部屋で、実際の大きさの2倍くらい大きくなっていて、父親が正座をしていました。父親の所に近付いて分かったのですが、その人は父親ではなく父親に似た誰かでした。「今離脱状態で体に戻れないんだけどなんとか助けてくれない」的な事をつけると、父親の様な存在は厳しく叱りつける様に「お前が悪いんだろ」みたいな事を言ってきました。それは叱咤する雰囲気をかもし出していましたが、その裏にはからかっている様な意地悪で嫌がらせをしている様な心がにじみ出ていました。その後、居間に飛んだらしく、母親がこたつに入っていました。母親に「今離脱してて戻れないんだけど」と言おうと近付いていくと、片足が3分の1くらいにしぼんで小さくなってました。「その足!!」と言うと母親は気持ちの悪い笑顔で何か訳の分からない事を口ばししていました。なんだか空間全体が1つの巨大な生物で、その空間にもてあそばれてる

感じがしてきました。

不安と恐怖でどうしようもなく、「あー」という感じでいると、微音で流していた「ホワイトイーグルの言葉」のCDが聴こえてきました。「平静を保ちなさい何事に対しても恐怖を感じる必要はない」という趣旨のことが聴こえてきて、勇気がわいてきました。「そうだ、恐怖を感じる必要はないんだ」と強く思い、「やめろ!!」と叫ぶと体に戻れました。その後、母親の足が気になったのですが、特に変わった様子は無かったので、何か言うとかえって気にしておかしくなるかなと思い、聞かないでおきました。

2008年9月22日

ホラー映画そのままの恐怖 頬を叩くと痛い

前兆現象から金縛りに突入しました。いつもの様に何者かに体に抱き付かれ、暗い空間内をひきずりまわされるのですが、この日は特に変わっていました。耳元で聞こえる男の「ハア…ハア…」という息づかいと辺りの空間全体の雰囲気、いつもにも増して数段イヤな感じと危機的状況とおどろおどろしさを、かもし出していました。はりつめた空気全体のヤバさに「これはマズい」と非常に恐くなりました。金縛り状態をとこうともがくのですが全然とけません。なんとか目をひらくと、カーテンやベッドのそばのタオル（普段そこにタオルはおいてないはずなのになぜかおいてある）がまるでヘビの様にグニャグニャと動いていました。なんともおぞましい雰囲気でした。リアルで、ホラー映画を体験している感じです。絶対ホラー映画を作ってる人はこういう体験があるんだなと思いました。もしくは、ホラー映画を見た自分自身の記憶が、この様な状況を作り出しているのか…とも思い

ましたが、「そんな事考えてる場合じゃない!!」と、なんとかこの状況から脱出しようともがいていると、耳元で「ブッ」という音が、ものすごくリアルに聞こえました。「これはオナラを耳元でされたのか」と思い、普段ならフツフツと怒りが沸いてきてもおかしくないのですが、この時ばかりは絶望感から「あーもうどうにでもしてくれ」と思ってしまいました。

その後「パン」と自分の頬を叩くと、男の霊は立ち去っていきました。叩かれた時になんと痛みを感じました。それまで離脱状態で痛みを感じた事は全く無かったのですが、離脱状態でも痛みを感じる事があるんだとびっくりしました。その男の立ち去っていく様子から、この男はもう2度と現れる事は無いと確信しました。

⑤ リョウレポート 幽体離脱した19歳の体験

2008年10月9日 弟の想念体が現れた(?)

夜中の2時頃突然目が覚め、頭の中で「パチン」という音が鳴ったと思うとその瞬間金縛りに突入しました。

またいつもの様に何者かに体に抱きつかれ、背中を舐めまわされました。なんとか脱出しようともがいていると体が動きました。そして、なんとか起き上がって電気のみもに手をのばし、カチッとひっぱったのですが、電気が何度ヒモをひっぱっても点きませ